テクノ未来塾　産業デザイン財団賞　授賞式　報告書

1. 開催日：2020 年 12 月 12 日（土）午後
2. 開催場所：NPO テクノ未来塾　寺子屋フォーラム（Zoom 開催）
3. 参加者数：32 名
4. 参加者の地域：日本（関東・中部・関西）、韓国、インドネシア、北欧

年末恒例の寺子屋フォーラムにて、特別講演、会員によるショートプレゼン、グループ討議で構成されるセッションに続いて後半のメインイベント、産業デザイン財団賞の授賞式を行いました。今年は例年のように全国から一堂に会するという設定が困難な状況のため、既に数回フォーラム開催した Zoom を利用し、オンラインにて開催しました。理事長挨拶、担当理事のスピーチ、そして受賞者の喜びのスピーチを以下にご報告します。

1.　理事長挨拶（理事長　阿部　惇氏）

テクノ未来塾の皆さんが今、いろいろやっていただいている活動、この活動を評価してくださる方がいらっしゃいまして、テクノ未来塾が産業デザイン財団賞の対象団体に認定されました。 そこで、「夢と志をもった技術者の自立・自律」を趣旨としてテクノ未来塾・産業デザイン賞を定め、趣旨に沿った活動をされた方のチャレンジ精神を称え、さらに活躍していただくために表彰することとなりました。 これから毎年、塾内選考委員会にて受賞者を決定し、財団理事長より財団賞が授与されることになります。

それでは、2020 年、栄えある表彰第一号を発表します。表彰状を読み上げます。

表彰状
産業デザイン財団賞
テクノ未来塾広報委員会　折田　伸昭　殿

開発技術名
技術者の視点で社会的価値を生み出す活動の基盤となる各種機能の開発・構築

あなたは頭書の開発・基盤構築において委員長として中核的な役割を果たされました
その成果は会員個人およびグループの自立的学びと科学・技術に係る啓発活動の活性化に顕著な貢献をされましたのでこれを賞します

令和2年12月12日

特定非営利活動法人　テクノ未来塾　理事長　阿部　惇
一般財団法人　産業デザイン　理事長　橋本　久義

以上です。折田さん、おめでとうございます。皆さん、拍手を。

表彰状

産業デザイン財団賞

テクノ未来塾 広報委員会
折田　伸昭 殿

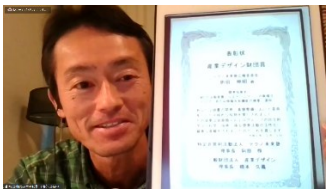
開発技術名
技術者の視点で社会的価値を生み出す活動基盤
となる独自の各種機能の開発・構築

あなたは頭書の開発・基盤構築において委員
長として中核的な役割を果たされました
その成果は会員個人およびグループの自立的
学びと科学・技術に係る啓発活動の活性化に
顕著な貢献をされましたのでこれを賞します
令和２年１２月１２日

特定非営利活動法人　テクノ未来塾
理事長　阿部　惇

一般財団法人　産業デザイン
理事長　橋本　久義

2.　受賞者のスピーチ（折田　伸昭氏）



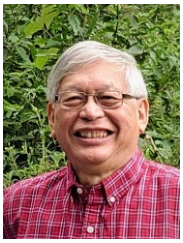
阿部先生、ありがとうございます。今年から産業デザイン財団賞ができることを聞いた時から、一回目は広報委員会として受賞したいと密かに思っていました。とても立派な表彰状で、会社の技術表彰より嬉しさがあります。ありがとうございます。

受賞できたのは広報委員会のメンバー、コンテンツを提供して頂いた出川先生や浅川先生、デザイン等でアドバイスを頂いた辻岡さんなど、皆さんの協力あってのことです。また、技術者の独創性を形にするための基盤が作れるようになったのはテクノロジーの恩恵ですが、今後どう活かすかが、いちばん大事なことだと思います。みんなの活動、「現役技術者の強みを生かし、自由な立場で自ら構想し、明るい未来をつくるさまざまな活動」、を外に向けて発信していくことが、テクノ未来塾の活動の価値を上げることに繋がると思っています。

広報は縁の下の力持ち的な手段となる活動ですが、双方向のアウトプット機能をさらに充実させ、皆さんのそれぞれにユニークな活動を外部に発信しながら外部の団体とも交流できるようにしていきたいと思っています。 この場を通じて、これからも皆さんからの発信をよろしくお願いします。

今、北欧出張中ですが、時差は 7 時間ですので、Zoom で参加することができました。
本日は本当にありがとうございました。

3. 担当理事コメント（理事　出川　通氏）



一般財団法人産業デザインは、過去に講師としてテクノ未来塾にお呼びし、また皆さんの中に参加された方もいらっしゃると思いますが、机上に置かれた小型射出成型機の見学会もさせていただいた大田区の竹内社長が、日本のものづくり産業の発展を願って設立された財団です。

財団では、本気で活躍しようとしている技術屋や、オリジナリティある中小企業を支援するために 3 種類の助成事業を策定されました。

テクノ未来塾が認定をいただいた助成事業の趣旨は、技術者が業界、専門分野を超えて、夢のある未来を自らつくる活動を行い、技術者の自立・自律を目指す、その活動を応援するというものです。ユニークな活動をしているテクノ未来塾が選定され、その中からイニシアティブを取った個人を選定して財団賞を授与することになりました。

竹内さんはもともと「クリエイティブ」「アクティブ」「社会に対するインパクト」の 3 つを提唱されています。多種多様な双方向の情報共有機能をつくることで技術者同士が刺激し合い、あるいは技術者が社会にインパクトを与えることができるようになったことが、受賞理由であり、ある意味スタート点として認めて頂いたということです。

フェーズの異なる各種の機能が有機的に統合された基盤を活用することにより、自由に発信したり活動成果を共有・発展させたりしてインプットとアウトプットを繰り返し、それぞれに独自の発想で継続的に活動内容を磨き上げていくことが重要です。

表彰状を受け取った際に竹内さんからは『会社や組織の中にいる人が多いと思うが、それにこだわらず、縛られず、ゆるい繋がりを上手く使うことで新しいことができるはずであり、自立して世代を超えた社会へのインパクトを技術で邁進して欲しい』との念押しをされました。これはテクノ未来塾の方向性と一致しており、今後いろんな活動の中で既存の組織ではできないクリエイティブ、アクティブ、社会実装へのインパクトをやれたと思う人は、ぜひ提案してさらに活動を強化して欲しいと思います。来年は応募者がさらに多く出ることを期待しています。

以上

（2020.12.25　作成：NPO テクノ未来塾 http://techno-miraijuku.com 広報委員会・事務局）